



甲塚古墳形象埴輪出土位置及び出土品

これらの埴輪列の中から、日本初出土の機織をする女性を表現した機織形埴輪が2種類出土しました。この機織形埴輪は、古墳時代における機織機の構造がわかる貴重な発見となりました。また、埴輪の基部が墳丘に樹立した状況で出土したことから、埴輪の配列と設置された方向が判明した貴重な例になりました。

**出土した埴輪の順序**

形象埴輪列は横穴式石室側(右側)から男性の人物埴輪、機織形埴輪を含む女性の人物埴輪、馬子とみられる人物埴輪と馬形埴輪の順で並べられ、機織形埴輪は石室方向に背を向け、人物埴輪は周溝側(正面方向)に、馬形埴輪は石室方向に向けて置かれていました。(上図参照)人物埴輪には帽子をかぶり、上げ美豆良で農具を担ぐ男性の埴輪や頭上に壺や箱状の容器を載せる女性の埴輪もあり、種類も豊富になります。4点ある馬形埴輪は馬子を伴い2点は装飾馬具が付く飾馬になり、他の2点は面繋のみを装着する裸馬になります。飾馬のうち1点には横座り時の足置きと想定される水平板が表現されています。これらの形象埴輪には彩色が残存しており、黒・灰・赤・白の4色が使われていることもわかりました。

**多くの土器類**

土器類は、横穴式石室西側の約3m四方の範囲から約350点が出土しました。これらの出土遺物は、古墳墳丘上における飲食を伴う儀礼行為がおこなわれたことを具体的に示しています。

甲塚古墳出土遺物は、古墳時代では他に類例のない機織形埴輪に加え、古墳墳丘上における葬送儀礼を復元するうえで出土状況が明確であり、遺存状態も良好な形象埴輪と土器類で構成され、高い学術的価値を有していることから重要文化財指定になりました。

指定点数は埴輪類が、機織形埴輪2点、人物埴輪17点、馬形埴輪4点になります。土器類は、須恵器58点、土師器16点の合計97点になります。これらの遺物は、しもつけ風土記の丘資料館で展示します。

